第5期 国分寺市公民館運営審議会 第6回定例会

日 時 令和6年2月16日（金）午後2時～午後4時

場 所 並木公民館 講座室

出席者

■委 員 田中委員長・鈴木副委員長・松田委員・稲津委員・川上委員・江渕委員
坂本委員・辻委員・有馬委員・笹井委員

■職 員 本多公民館課長兼本多公民館長・渡辺本多公民館事業係長・加藤恋ヶ窪
公民館長・保谷光公民館長・久保もとまち公民館長・鎌田並木公民館長

事務局：本日は委員11人中10人の委員が出席で、委員の過半数の出席となりますので本日の会は成立いたします。よろしくお願いいたします。

田中委員長：それでは定刻になりましたので第5回国分寺市公民館運営審議会を開会いたします。よろしくお願いいたします。本日は審議に先立ちもとまち公民館の施設見学をしたいと思いますので事務局お願いします。

事務局：それでは施設見学を始めますのでよろしくお願いいたします。

≪施設見学≫並木公民館

田中委員長：それでは、ご案内、今日はどうもありがとうございます。お世話になりました。もし、何か皆さんから、若干の時間ですけれども、ご質問などあればお聞きしてみてもいいかなと思うのですけれども、何かありますか。

委 員：ここは一番新しいですね、5館のうちで。この前はどういう、何の土地だったのですか。何に使われていたのですか。結構広いですね。

事務局：畑です。

委 員：私有地だった？

事務局：はい。

委 員：私有地だった。畑で私有地。そうですか。分かりました。

田中委員長：ほかには、どうぞ。

委 員：陶芸小屋は結構新しいような感じがしたのですけれども、この並木公民館ができたときと同じ時期につくられたのかしら。

事務局：今、できた当初の資料を見ているのですけれども、そのときに陶芸小屋の話は、出ていないみたいで。お調べして、後で。

委 員：結構新しいかななんてちょっと思ったのですね、その陶芸小屋だけ。

田中委員長：きれいですよね。

委 員：ええ。何となく、イメージ的に。ちょっとしゃれているというか。

田中委員長：では、後でご確認できれば。

事務局：すみません、後で。

田中委員長：また、おっしゃってください。ほかはいかがですか。よろしければ、私から聞いてもいいですか。ここも、先ほどもお話あったように、市民の方の希望というか、いろんなご意見を踏まえてつくられたということで、お聞きしたところによると、このホールがやっぱりみんな交流できる場所があるといいということで、ホールが、大きいものがつくられたようにお聞きしているのですが、このホールの効果ってやはりかなり大きいと思われませんか。館長さんに。どうでしょう。このホールがあることで、市民同士がこう、ふらっと来て交流できて、何かいいアイデアが出るとか、職員の方が割と気楽に市民の方とこの場で交流できて、事業の企画にいろいろアイデアがですね。あまり、具体的な効果は別にして、かなり交流が随分行われている感じがしますか。

事務局：ここがあると、事業が生まれるかと言われると、そこまでは至っていないかなと思いますけれども、休日なんか見ていると、皆さん自分たちがやりたいイベントの準備のために、印刷室も利用されるのですけれども、PTAの方とかが、部屋までは借りなくても、今、テーブルが固まりになっていると思うのですけれども、あれは今、エレベーターの工事で、入り口の横の市民サロンが使えなくて、あれでもちょっとテーブルの数を増やしているのですけれども、ああいう大きな固まりを設けたらかなり、部屋を使わなくても、打合せしているのを休日の講座に出たときに見かけることも多くて、あと段下のテーブルのところでも皆さんいろんなことの打合せで話合いされているなという印象はありますが、そこがほかのグループとの交流にまでつながっているかという、そこはなかなか難しいかなというふうに思いますけれども。あとは、夜間だと高校生が勉強していたりとか、小中学生も5時とか6時までゲームしたり勉強したりということで、結構そこは部屋を借りているわけではないので、人数としては、カウントはできていないところではあるのですけれども、かなり利用があるなというふうに思いました。昨年度はまだコロナが落ち着いていない状況でしたので、私は異動してきたばかりだったので、結構ホールがらんとしていたのですけれども、今は割と平日の夕方ですとか土日もかなり混んでいるという印象があります。

田中委員長：ありがとうございます。例えば市民活動センターみたいなところだと、こういうスペースがあって、市民団体がふらっと来て打ち合わせるとか、そういうフリーのスペースがあったりしますけれども、割とそういうふうによく使われているわけですね、今お聞きしたら。イベントの準備とかね、グループの方が来て。

事務局：気軽に皆さん来て、使われている感じがしますね。

田中委員長：気軽に。分かりました。

事務局：お金もかからないというのと、特に予約も要らないというところもあって、皆さん気軽に来て、ちょっと数十分話して出ていかれる方もいらっしゃいます。

田中委員長：ありがとうございます。恋ヶ窪公民館の複合施設化に向けて、これも何か1つのアイデアになるのかなと思って聞いていました。ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうかね。それでは鎌田館長、どうもありがとうございます。

1 連絡事項

(1) 配布資料確認

田中委員長：それでは、議題のほうに入りたいと思いますが、初めに連絡事項の(1)配布資料の確認です。事務局からお願いします。

事務局：では、配布資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第がありまして、資料6-1で「国分寺市教育委員会第1回定例会」、資料6-2で「国分寺市現庁舎用地利活用基本計画」の概要版、資料6-3、「第5期国分寺市公民館運営審議会」のときに、第4回の後に行われた意見交換の資料、これも前回と同じ資料ですけれども、今回もつけさせていただきます。そのほかに「けやきの樹」の2月15日号とくぬぎまつりのチラシと並木公民館運営サポート会議のたよりを置いてあります。あとは、委員の皆様のための配布になりますが、田中先生のメモ書きもつけてあります。皆さん、過不足ないかご確認いただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

田中委員長：ありがとうございます。私のメモは委員の皆さんだけというお話ですけれども、傍聴の方には配ってはいけないようになっていますかね。

事務局：特段会議資料ではない状況だったので。

田中委員長：もしよろしければ、今日多分傍聴の方は、詳しくは聞いていませんけれども、恋ヶ窪公民館の議題に関心を持ってこられたのではないかなど、こちらで勝手に思っていますけれども、それであれば、このメモもお手元に置いていただきながら聞いてもらってもいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

事務局：はい、分かりました。

田中委員長：いいですかね。余部ありますか。なければ、私も余部持っていますけれども。お願いします。ありがとうございます。では、資料確認終わりましたけれども、大丈夫ですか。過不足ありませんか。過のほうは別にいいですけれども、余分に持っていていただいても。不足がなければ、では、いいですね。

2 報告事項

(1) 令和6年国分寺市教育委員会第1回定例会

田中委員長：それでは、続きまして、2番目の報告事項、令和6年国分寺市教育委員会第1回定例会ということで、これも事務局からお願いします。

事務局：資料6-1を御覧ください。1月25日に開催されました第1回の国分寺市教育委員会定例会の議案と協議と報告事項の一覧となります。このときは、公民館としての報告や議案は上げてはおりませんけれども、その中に、前回ご報告しました第4回の議会での一般質問等ですね、部長がまとめてご報告させていただいておりますので、報告事項の2の「令和5年第4回定例会の一般質問について」という案件で公民館の質問をいただいておりますけれども、前回と同じ内容となりますので、本日は割愛させていただきたいと思えます。簡単ですが、以上です。

田中委員長：ありがとうございます。1週間前のことですね。

事務局：はい、そうです。

田中委員長：ありがとうございます。

委員：1点いいですか。

田中委員長：どうぞ。

委員：前回の議事録のときに、いじめの議題が挙がっていて、中身は本多館長も全く分からないという話があったと思うのですが、前回から今回の間で市議会議員さんと話す機会がありまして、その話をちょっとさせていただいたのですが、市議会議員のほうにも開示されていないそうです。それで、我々、デリケートな問題なので、何でもかんでも開示すればいいという問題ではないと思うけれども、あまりにも開示条項が少な過ぎるのではないかとということで、議員さんにはお伝えしました。

田中委員長：分かりました。

委員：「そう言われればそうですね」とは言いました。

田中委員長：ありがとうございます。では、報告事項まで終わったということでよろしいでしょうか。

3 協議事項

(1) 国分寺市公民館施設見学について

田中委員長：続きまして、協議事項に移ります。協議事項は(1)、(2)とありますけれども、(1)はこれまで冒頭で申し上げたように、5館見学を兼ねて会場を移してきましたので、それぞれの公民館のいろいろな印象に残った点とか感想とかあると思いますので、それを一通り出し合ってみたいと思います。それはそれ自体に意味があると思うのですが、(2)の恋ヶ窪公民館の移転についての複合施設化に向けて、何か我々が5館見てきた印象とか感想から、また複合施設に向けてのいろいろな意見に反映させられるものがあればなお

いいなというようなことを思っております。ですから、(2)のことを少しイメージしながら(1)のこれまで各公民館見てみての感想とか印象とか、そういうものを出し合えればいいなと思うのですが、そんなところでよろしいでしょうか。できれば、せっかくですので、全員の方、何らかの印象なりあるかなと思いますので、ご欠席の場合は行かなかった公民館があるので、それは全然しょうがないので、別にそれぞれの公民館について感想を言わなくてもいいですから、5館見た結果、特にどこどこ公民館のこんなところが印象に残っているとか、いいなと思ったとか、そういうような感想でいいと思っているのですけれども、いかがでしょうか。

委員：全体なのですけれども、従来話合いがされていたことかと思うのですけれども、やっぱりそれぞれに個性のある施設というのををお持ちだなと思いますし、各館で主にその最寄りの人たちを中心に、それを活用されているのかなと思うのですけれども、5館の施設特集みたいなことで、要は発信という話があったのではないですか、前回の答申のときに。アピールする、あるいは皆さんに館の最寄り地域だけではなくて、越えて、やっぱり市の全体の方々に「そういう施設がありますよ」ということとか、「その施設を使ってこういうことをしていますよ」。もちろん市報にはイベントはイベントで載ると思うのですけれども、やっぱりアピールというところで、もう1回5館が協力して、例えば1枚の紙で施設特集みたいにして市報に折り込んだりしてもいいのかなというふうに思ったのですけれども。だから、せっかくすばらしい施設がいっぱいあって、大変興味深く面白かったのですけれども、あとはどうやって知っていただいて、さらにもっともっと使っていただくかなというところが取り組む課題かなと思ったので、そこに5館の協力の意義はあるかなというふうに思いましたけれども。

田中委員長：ありがとうございます。例えば、色刷りで「公民館って何？」とかね。そういうのを何か新聞折り込みでもいいので、1回でもパーッと入れてしまえば、ちょっとまた何か違うのかもかもしれませんね。

委員：本多も中庭というかカフェがあってね、恋ヶ窪も中庭があって子どもたちも頻繁に使われているようですし、光の音楽とか、ここの陶芸とか、それぞれのこの施設特集みたいなことをやってもいいのかもしれないですね。

田中委員長：そうですね。ありがとうございます。また館長さんたち、ちょっと考えてみてください。ほかはいかがでしょうか。

委員：全体として、坂本さんも言われたように、やはり各館長さんの個性があらわれている取組をされているので、やはり公民館って必要だなというのを再認識させていただいたのですが、特に、勘違いしていたら修正してほしいのですが、もとまち公民館さんが、中学生とか学生だけを集めて、保護者抜きでいろんな活動をされていて、壁に貼っていて、ああいう取組というのは、

今度の複合施設が単なる貸会議室みたいになってしまうと、中学生が借りに来るということはまずないでしょうから、ああいう、要は館長さんが言われたように、子ども時代に、公民館というものが、集まって楽しい思い出をつくって、そのまま大人になっていただけるとありがたいみたいなことを言われていたと思うのですけれども、そういう場というのはやっぱり貴重かなというふうには思いました。あと1点、これは前から本多でも思っているのですけれども、ほとんどの公民館に図書館が併設されているのですけれども、図書館と公民館の間の壁が若干あるような感じがするのですね。それで、世の中の的には、本屋さんが大分開かれた本屋さんになって、カフェと併設するとか、有料でそのスペースに行って、その本は自由に読めるとか、それに比べると、図書館が割と閉鎖的な感じがして、公民館がどんどん開かれているのに、図書館のほうは経営も第三者に移管されたり、単に本を貸すだけの、言葉は悪いのですけれども、なり下がってしまっているような感じもするので、もう少しその辺の、今度のところも図書館と公民館、両方がもう少し機能的に関われるような施設ができるとありがたいなというふうに感じました。

田中委員長：せっかく同じ建物にあるのだからと思うのですよね。例えば図書館の本を借りてきて、学習グループの方が公民館のほうでそれを使って打合せするとか、そういう、同じ建物の中にいるような感じで使えるのがいいという、そんな感じですか。

委員：そうですね。それと、今日時間が早かったので、2階の図書館利用させていただいてちょっとびっくりしたのですけれども、利用者の声というところで、小金井の本が借りられないという。小金井のほうは、府中だとか近隣のところ全部借りられるのですけれども、国分寺だけ借りられなくなってしまうらしいのです。理由とか全然私分からないのですけれども、ちょっと寂しいと思いました。

田中委員長：分かりました。実は先ほど館長とも、課長とも話をしていたら、教育長が図書館のほうについて随分興味を持っているということで、後の議論に出そうかなと思っていたのですけれども、皆さん行かれたことありますでしょうか。武蔵境の駅前に武蔵野プレイスといって武蔵野市の施設があって、ここが図書館を含む複合施設なのですね。図書館と青少年支援施設と市民活動センターが一緒になった建物があります。これはお金がかかるのですけれども、その図書館にある本を建物の中のどこか行って見てもいいのですよね。だから、市民活動センターのフロアに行って、図書館の本を、借り出しをせずに書架からただ持ってきて、それでここで使ってよくて。それから、中にカフェがあるので、民間企業が入っていて、カフェの中でも図書館の本を読みながらコーヒーが飲めると。どうも聞くところによると、教育長がそこに随分興味を持っていらっしゃるようなことを聞きまして。

事務局：その建物のデザインと申しますか、施設のイメージがとてもよいというようなのはおっしゃっていました。

田中委員長：例えば今、稲津さん言われた壁という点でいくと、とりあえず武蔵野プレイスは、1階に雑誌コーナーがあって、それで2階に児童の、子どもたちの本があって、地下に大人、一般の図書があるのですね。どこで借りて、どこで読んでもいいということなので、施設全体の中に図書館が溶け込んでいるのですね。だから、例えばそういうイメージがあるといいなど。

委員：私が言いたかったのは、そういうことです。

田中委員長：分かりました。それでは公運審としての提案をしてもいいですよ。まさに公民館と図書館が融合するような形になっている。お金がかかるのですね。聞くとところによると、本の1冊1冊に全部何か埋め込んで、建物の外に持っていきこうとするとブザーが鳴ると。だから、建物の中にある限り大丈夫なのですから。

委員：それはスーパーの万引き防止とかね。

田中委員長：そうそう、それと同じなんです。

委員：それは、コーヒーとかお茶を飲みながらでも可能なのですか。

田中委員長：そうですね、可能なのです。

委員：今、世の中で本屋さんがやっているのは、そういう可能なところが多いですね。

委員：ツタヤとかやっていますよね。

委員：そこまで言うちょっと汚したりなんかというのが心配なんで、どこまで。私は具体的には本多公民館で、図書館の本がせめて中庭では読みたいなどという希望はあるのですけれどもね、今のところ駄目なのです。

田中委員長：中庭だと特に施設の外に出してしまうから。

委員：どこということか、図書館から見えるところですから。

田中委員長：フェンスがあるから大丈夫か。

委員：中庭から外部には出られないので、本多の場合はですね。

田中委員長：ありがとうございます。これは、次につながるようなご意見でしたね。あと、いかがでしょうか。

委員：まだどうしたらいいかという、そこまで全然いってなくて、率直な感想だけお話ししたいと思うのですけれども、ハードの部分とソフトの部分とあると思うのです。ハードというか空間、要するにこの建物とかそういうのだと思うのですけれど、私が公民館、ずっと仕事で忙しくて関心がなくて、一番最初に入ってきたときに、皆さんが、公民館のスタッフの人たちが本当に意欲的で、いろんなことを思いついて、それを実行しようとして、そのエネルギーとかそういうのに私すごく感動を受けたのですね。「ああ、もう公民館活動って、こんなにみんな、中の職員の人たちとかが一生懸命やっているのだ。

こういう世界があるの」という感じぐらいで。でも、市民の人とすごく乖離しているような感じで、空回りしているのではないかしら、私たちのこの熱意が、市民の一般の人に伝わっているのという感じで、私はその詩吟のグループなどのときにLINEをつくっているのですけれども、今こういう感じでやっていますみたいなことを、ほんとはごく少数の人たちだけですけれども、ツイッターとか、そういうことを私やっていませんから、ちょっと発信したり普段の会話でもやったりしているのですけれども。そういうような感じで、みんなすごく生き生きしている、そういうところがあるにもかかわらず、私は、全体的な感想として、空間は、はっきり言うと、居心地のいい空間とはちょっと違うのですよね。市民の人にとって居心地がいい、行ってみたいとかいう、そういう施設ではない。ちょっと古いというのもあるのでしょうけれども、美的センスがなさ過ぎるみたいな。ちょっと汚い、「何でこんなところにこんなあれがあるの」とか、そういうのがすごくあって。みんなそういうのはあんまり気にしないのかな。でも市民の一般の人方は結構そういうところに目がいて「ええっ、もう来たくない」とかと思うのではないかしらと。今、そこを私もちょっと案内してもらった人がいるのですね。ずっとここに、地元にいる人が、「主人は陶芸教室に行っている」と。「でも、私は一度もここには来たことない」、多分1回来て、すぐそこなのであまりにも近いので、1回も行ったことないってあり得ないと思うのですね。のぞいて「あっ、嫌だわ」という感じで、「もう来たくない」みたいな感じで敬遠しているのかなという、そういうところが、こちらだけではない、ほとんど公民館って古いですよ。そういうことに対する関心。お金が確かにかかることではあると思うのですけれども、皆さん、話題にも乗らないし、公民館もうちょっときれいにしようよ、お金がかからない範囲で何かきれいにできないのかなという、話し合う、そういう場面もないのかなというのが、そのレベルなのですけれども。それが1つと。あとソフトの面で、職員の方はものすごく意欲的で、本当に明るく、生き生きとしていて、こちらも触発される感じなのですけれども、土日の人たちはもうガラッと変わって不愛想で。私、一番最初、仕事しているときには土日ぐらいしか行けないので、パッと行ったりなんかしたときに、すごく不愛想で、にこりもしないし、「何人来たの」みたいな顔をされて、「あっ、もうちょっとこれは行けないな」みたいな感じで、それからずっと行かなかったり。ごみの用紙をもらいに行っただけなのですけれども、「いや、何か怖そうで嫌だわ」という、それからもうずっと行かないというのがあったのです。行かないというか、別に「行かない」なんて思ったわけでもなくて、ちょっと遠のくというぐらいな、そんな感じだったのですけれども。そういう人たちへの教育とまではいかななくても、「市民の人たちに対してもっと優しくしてよね」という、そういうあれが、全然そ

ういう、言う人もいないのかなと思うぐらいな感じで、上から目線で、「にっこりちょっと笑ってよ」みたいな感じが。笑わなくてもいいのだけれども、すごく冷たい感じで。そういうソフトの部分で、土日なんか行った人なんかは結構がっかりするのではないかななんて思いましたけれども。そういうことに対する気づきというのではないけれども、どなたか言ってくれる人いないのかなと。職員の人たちはみんなすごく意欲的で頑張っていて、私に感動をくれるぐらいなのに、土日に行くとみんなちょっとがっかりするのではないかしらみたいな。すごく率直な感想、レベルですけれども。だから、どうしようという感じで、まだ全然行っていませんけれども。

田中委員長：いや、とても大事なポイントですね。ありがとうございます。いちいち私からまた言っても。今、大事なポイントをおっしゃっていただいたような気がして。まずハードなのですけれども、「もう二度と来たくない」と思うような要因は多分2つあるのかなと思うのですけれども、1つは古い。もう1つは、古いのはいいのだけれども、古ければ古いなりに掃除したり飾りつけしたり、自分たちの場所だというのできれいに手づくりで何かやったらいいのではないかと思うけれども、そういうのもあんまりないのではないかというような印象ですよ。そこで思ったのですけれども、今度の複合施設と絡めると、実は武蔵野プレイスを外の方みんな、いいと言うのですよ。私、武蔵野市民なのでよく利用しているのですけれども、はっと気がついたら、まず新しいからきれいなのは決まっていて、それで掃除も行き届いていて、相当のお金かかっているのですね、あのメンテナンスに。だから、きれいなのはいいのですけれども、でも、市民の私たちの施設という居場所感がないのですよ。個人利用の人の居場所にはなったりする。1人でコーヒー飲んで、本読んでという。だけれども、グループの居場所という点でいくと、我々、私も登録団体なのですけれども、借りるだけなのです。公民館なら、何かもう少しみんなで飾りつけしたり、利用者団体が集まってきれいにしようと思えばやれるでしょう。プレイスは一切そういうことなく、指定管理者が全部、要するに外郭団体なのですけれども、全部きれいにしていて、市民の関わる余地がないのです。市民はいつも利用者なので、完全に供給側、需要側が分かれています。だから、今おっしゃったのはちょうど大事なポイントだなと思ったのは、今度新しく複合施設ができたときに、今の多分公共施設担当のイメージだと、公民館も福祉センターも全部同じ部屋で、一括で市民が借りられるというふうになりますね。そうすると、公民館を使っていた方々も、これが自分たちの場所だという感覚はなくなって、全部単発で借りるだけの部屋になって、最初に稲津さんがおっしゃった、公民館活動の成果を貼る場所とか、そういうのは多分今度の複合施設、よっぽどうまくやらないとできないのではないかと思うのですよ。武蔵野プレイスには一切そうい

う場所はないのですね。イベントをやるときのチラシは貼らせてもらうのだけれども、自分たちの活動成果をこうやって伝えていくようなものは一切なくて、やろうと思ったらギャラリーもお金を出して借りて、1週間ぐらい借り切ってやっていくという、そういうのしかないのです。そういうことを考えると、今度の複合施設は、空間的な意味でいくと、公民館利用者が私たちの場所という、昔、公民館ができるときに当時の担当課長が「公民の家だ」と言って公民館と言ったのですけれども、要するに国分寺市民のこれは家なのだと思って、家としてみんなで、じゃあ手入れしようというような感じに今のままだとならないような気がするのです、今のご発言、とても大事な思いました。それが空間のほうで。ソフトのほうは、恐らく前段のほうはいいですよ。職員の方が一生懸命考えて、イベントを企画したり、利用者ともコミュニケーションするのですよね。一緒に考えていく。そこはいいけれども、土日の貸出しの職員の方が冷たいとか、その辺多分、接遇研修みたいなのをちゃんとやっていかないといけないのですよね、きっとね。その辺もでも今度の複合施設のことに対するいろんな意見につながるかなと思いました。ありがとうございます。すみません、私の意見で。

委員：いえ、いいんです。

委員：こういうこと

田中委員長：そうそう、これ。ほんとですね。ああ、これ恋ヶ窪だ、ちょうど。

委員：館長、コメントを。

田中委員長：では、加藤さん、コメントを。

事務局：今、お渡ししている市報、一番恋ヶ窪公民館が汚くて暗くて入りづらいという話があったので、2月15日号のちょうど真ん中の地域の子どもたちとかに集まっていたいただいて、階段アートというのを、これ定期的にやっています。本当に自分たちが書いた絵がある、自分の孫が描いた絵があるということで、結構地域の方が前よりは比較的来やすいような環境が徐々に、汚いなりにちょっとできて、汚いがゆえにできたかなというふうに思っているような事例になっています。

田中委員長：ありがとうございます。これはあれですか、いわゆる登録団体と言われる方々がやっている。

事務局：これは事業として、子どもを集めて、子どもたちにそれぞれの公民館を描いていただいた図柄になっています。

田中委員長：なるほど。ありがとうございます。

委員：それから、階段の横にプランターが置いてあって、そこに季節ごとのお話を植えたり、それは誰がやっているのでしたっけ。

事務局：公民館です。それはまだ地域までいっていないです。

田中委員長：ありがとうございました。では、松田さん。

委員：今、江渕さんに質問しようと思ったのを田中先生が答えていらっしやっただけで、分かりました。ただ、平日の公民館の職員さんと、その土日の職員さんというのは、どういうふうに違うのですか。

事務局：一応公民館には非正規職員と会計年度任用職員の月額の方と時間額の方といらして、昼間の事務をやってくださる時間額の方、そして私たちは8時半から5時15分の勤務時間がありまして、それ以降10時まで開館していますので、その間は時間額の会計年度任用職員の方に勤務していただいているのですが、その方々のお仕事としては、管理人という名称で来ていただいているのですけれども、主にその施設を巡回して、見回りしていただくとか、来た方の対応なのですけれども、当然私たち土日もし業があれば出勤するのですけれども、ない場合には管理人さんの対応ということになります。管理人さんでもいろんな方がいらっしやるので、一概には言えないのですけれども、公民館の昨年度お祭りのときは、その期間、ちょうど館長が病休になってしまいまして、お祭りに出られなかったのですけれども、月額の方とその管理人さんと非常に一致団結していろいろなものを運んだりとかセッティングしたり、いろんな方の対応とかしていただいて、本当に管理人さんたち、大活躍していただいたというのがあるのですけれども、お1人お1人いろんな性格の方いらっしやるので、そういうところで誤解がちょっとあったかなとは思っているのですけれども、そういったところを今ご意見いただきまして、少しでもよくなる、本当に講座とか事業に力を入れておりまして、陶芸の施設もないし、スタジオもないし、大きなホールもないしというところで、非常に皆さんそれぞれがすごく勉強して講座、事業を企画してやっているところなのです。地域の方々と一緒に公民館をつくり上げてきたという経過があったのですけれども、ここで年代が交代するような時期でして、新しい地域の方、また来ていただけるようにということで、今その関係性を少しでもよくしようとして努力している最中ですので、今のこのソフト面の課題、ぜひクリアして、皆さんが来やすいような、来ていただけるような公民館目指して頑張りたいと思いますので、今の、どなたか分からないのですけれども、ぜひとも皆さんにお伝えしたいと思います。ありがとうございます。

委員：人材派遣業とか、そういうところから管理人さんを募集したりなんかしているのですか。どういう感じで。

事務局：管理人さんの場合には、こういった「けやきの樹」で記事を書かせて、今回は裏面にございますように、公民館保育者・管理人募集とありますね。こういった感じで公募しまして、応募していただいた方、館長と私とでお話伺いまして、それでこの方はという方に来ていただいているという、そういう経過がございました。ちょうど募集中ですけれども。

委員：では、この任命する人があんまりそういうことに関心がなければ通ってしまふという感じですね。要するに「不愛想な人でもいいわ」とかって、「時間的にはちゃんと来てくれる。じゃあ、いいんじゃない」とか言って、そういう感じなのかな。

事務局：性格、お人柄というのは、当然お話ししてみても分かりますし、私たちとしては、まずこの勤務の条件に合った人なのかというところを一番重要視しております。私たちが帰った後にお任せする方々ですので、「今までどのようなお仕事されてきたのですか」ということをよくお聞きします。

田中委員長：いずれにしてもこれは募集要項見ると、いわゆる、何ですかね、清掃とかそれだけではなくて、施設の貸出しとか受付も業務に入っているんで、やはりこの辺は、その辺ができる方ということと、やっぱり必要ならば研修も行うとか、それが必要なとも思いました。

事務局：ありがとうございます。

田中委員長：それでは、ほかにいかがでしょうか。

委員：恋ヶ窪公民館とか、あと並木公民館も先ほどお話伺って、やっぱり子どもたちがロビーとかで遊びに集まってくるというのを聞きました。確かに恋ヶ窪公民館って、午後行くと、小学生が遊んでいるのですね。そんなに広くないのだけれども、何か集まってきて遊んでいる。光公民館はあんまりそういう姿を見たことがないので、どこが違うのかなというふうに思って。やっぱり子どもたちが集まってくる公民館と集まってくない公民館の違いは何だろうな、子どもたち、何を求めて公民館で遊んでいるかなというところをちょっと突き詰めていくと、新しい複合施設もそういうのを取り入れていけば、子どもたちも集まってくるのかなというふうに思いました。あとは、光公民館もそうですけれども、もとまち公民館は子育て中のママたちのマップづくりというのですか。こういうお勧めスポットのマップをつくっていますよね、もとまちでは。すごくあれいいなと思って、ああいう利用する人たちがただ部屋を借りるだけではなくて、地域の情報を、しかも子育てに特化した地域の情報を集めて発信していくというのはすごくいい取組ですし、やっぱりそうすることで子育て世代もいっぱい集まってくる。そうすると、いろんな世代が集まってくるのはやっぱり複合施設としてすごく大事なことではないかなと思うので、その辺も取り組めるように考えていったらいいのかなと思いました。

田中委員長：ありがとうございます。大事なポイントだと思います。今の点、まずは子どもたちが集まる公民館とそうではない公民館があるというお話ですけれども、館長さんに聞いてみてもいいですか。

事務局：では、恋ヶ窪から代表して。多分、まず恋ヶ窪につきましては、あの地域に児童館学童がないもので、公民館にしか集うところがないというところで、

恋ヶ窪公民館は他館より子どもたちがいると思います。逆に、光とか本多公民館につきましては、特に光が同じ施設の中に児童館学童があります。逆に本多については、道路の向かい側に本多学童児童館というのがありますので、多分そういう部分の中で、公民館に来なくても子どもたちが行ける場所があるということで、そういう違いなのかなというふうに思っています。大きくそんな形だと思います。もとまちも近くに児童館があったりするので、多分そういうところだと思います。

田中委員長：そうすると、そういう条件がまずあるということと、あとそれでは光と本多は別にして、ほかの3つについては児童館がないので集まりやすいということはあるわけでしょうけれども。

事務局：恋ヶ窪公民館だけです。

委員：恋ヶ窪公民館だけです。

事務局：多分、並木公民館は、しんまち児童館があるのですけれども、多分向こう側が広がったり、北町のほうが広がったりするので、もしかしたら私なんかこっちに来たのですけれども、ここのほうが来やすいということで、でも多分来るのは高学年とかちょっと上ですもんね。1年生とか2年生が来ているわけではないです。土日はちっちゃい子も何かしらで来ていたりとか、あとはやっぱり1階入ってすぐ開けているというのがあるので、すっと入りやすいのかなとは思いますが。

田中委員長：ここですか。ここね。1階ですもんね。

事務局：それは子どもとかに限らず、どの年代の方も、開けていれば何となくいても、そんなに人の目も気にならないかなというところもあるのではないかなというところと、あと事務所から目が届くので、仮にお子さんがいても、ご家庭のご両親とかから見ても安心というか不安はあまりないのかなという面はあるかなと思います。

事務局：ちょうど昨日職員と話したのですけれども、子どもが来るとやはりうるさくなるので、「うるさいよ」と小言を言わなければいけなくなるのです。その都度言われるのに、何で子どもたち来るのだろうかというふうに、逆に職員のほうも本当に不思議、本当に怒られるのだったら公園がいいのではないと思うのですけれども、それでも恋ヶ窪公民館を選んでいただくということは、きっと子どもたちにとって、あれだけ言われても自分たちの公民館だ、居場所だということ、何かしらに思う目があるのだ、大人が見えない部分があるのではないかなというふうに職員でも謎の部分があります。

田中委員長：そうですね。ありがとうございます。あそこのフリースペースに子どもたちが集まりやすくしようというときに、やはりそこに職員の方がおられたほうがいいというのはありますか。これも大事なポイントかもしれません。あともう1つ、川上さんが言われた、情報を集めた支援、これ確かに大事で

すよね。公民館は事業をやるのだ、それからまた貸館なのだというのがありますけれども、今の市民が自分たちで何かやって情報発信する場、これもまた大事な公民館の機能ですよね。そのあたりも複合施設に向けてのアイデアになりますね。ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

委員：今のご意見に関連して、貸館の施設と公民館の、私の意見ですよ。決定的な違いというのは、こういうふうにならざるに不特定多数な人がつながって、顔見知りになれるという施設なのですよね。貸館だともう決まったグループに貸してしまっているのです、ここでも言われている貸館、今やっている公民館に、別の自治体の公民館に行ったら、「どこのグループですか」とか聞かれて、「いや、入っていません」、「もう出ていってくれ」みたいな話になって、すごく怖いおじさんだったのですけれども。余計なことは言っただけではないのですが。でも、例えば公運審も1つの仕掛けですよね。だって、鈴木さんにしても、坂本さんにしても、前から一緒にやっていて、知り合いになって、いろんなことを議論できる仲間になった。別にそれは公運審みたいなものをつくれと言っているわけではないのだけれども、そういう仕掛けができるのが公民館だと思うのですよね。特定のグループに登録した順番にとか、貸しますというのはどこでもできるという。そうではなくて、そういうみんなが、知らない人同士がつながる。ただ、花が飾ってあって、この間の都公連の基調講演でもありましたけれども、花が飾ってあって「きれいですよね」と、職員の方が「これは誰れさんが飾ったんですよ。誰れさんが植えたんですよ」という話をするとつながるのですよね。そういう場なのだろうなというふうに思うのですよね。

田中委員長：人がつながれる場所ということですね。ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

委員：本当に見学、いろいろそれぞれの館、させていただいて、ありがとうございます。いろいろと社協としても公民館さんお借りすることが多くて、お邪魔していることはあったのですけれども、各館の館長様に見せていただいたりとか、それぞれ知らなかったことをご説明いただいたりとかということによって、やっぱり知っていたつもりでも分からなかったところとか新たな発見とかがあったので、皆さん言われていたように、各公民館のこと、本当多くの方々に「こんなところですよ」というのが、できればカラーで皆さんに周知ができるといいななんていうことはすごく思ったところではあります。各館のところの中でも、いろいろと子どもたちのつながりというのがそれぞれあるなというふうに思っていたところで、今日も五中さんだったりとかが表示されていたりとか、国分寺高校さんがとかいうところもあるかなと思いますし、前回のもとまちさんでも四中さんだったりとかというところがあったりもしたので、各小中学校だけではなく、高校も含めてにな

るかと思うのですけれども、いろいろなつながりがあって、そこから公民館を利用されている方とのつながりなんていうところも含めて、公民館だからこぞできることなのかなということはとても感じました。それは表示のことから、すごく興味を持ったりとか、中学校もここに関わるのに、じゃあ、そこに対して保護者の方もとか、それこそ祖父母の方がお孫さんのなんていうところもあるかなというふうに考えると、やっぱり公民館ならではの強みになるのかなというところはとても感じたところではあります。

田中委員長：ありがとうございます。今のは、いろんな人が関わっているというのがすごく明示的に表現されているという感じでしょうかね。

委員：ある意味本当に改めて見させていただいたときに、各館ですごく表示物、いろいろと工夫をされていらっしやったりとか見やすくされていらっしやったり、あと本当に中学生、学生さんたちのことも本当にいろいろ掲示をされていらっしやるというところが、やっぱりそれを見に来られる方もいらっしやるのだなというふうなことをとても感じたところでは、改めて感じたところではあったので、そういったところに目を向けても、自分がまだ目を向けられていなかったのだなということも含めてにはなるのですけれども、皆さんに市民の方にお知らせできるといいななんていうふうには思いました。

田中委員長：ありがとうございます。

委員：もう皆さんいろんなことをおっしゃってくださったのですけれども、私はやっぱりこの間の杉並の見学からすごくショックというか、受けて。例えば私のうちは、中では私が一番この委員になるまでは公民館に縁の薄かったあれで、妻と娘は本多公民館でやっているお茶に毎回伺わせていただいたり、それから娘のほうは、本多だけではなくて、昨日ももとまちで練習、それから光とか、あるいは公民館ではないですけれども、四小なんかもお借りして、歌とミュージカルとかダンスの練習するグループがあるのですけれども、私は送迎するばかりであれですけれども、部屋をお借りしていろんな練習をしていますけれども、それとは別に、その杉並のあれを見て思ったのは、国分寺ももっとお金かけてリニューアルを、やっぱり時代に合ったものにしていく、時代に即して変えていくというふうな努力というか取組をもっとしてほしいなど。家は東恋ヶ窪なのですけれども、よく行くのは本多の図書館とか公民館に行くのですけれども、あそこを杉並みたいにリニューアルしたらどういうふうになるのかなど。もし実現したらすごく楽しみだなと。もちろんほかの公民館もそうなのですけれども、そういうふうに思ったことと。それからさっき稲津さんだったでしょうか、図書館と公民館の利用の連携みたいな話がありましたけれども、私は元教員なのですが、校舎をつくる、あるいは学園として何か器をつくるというときに、どうしてもやっぱり図書館あるいは図書室と動的な部分ですね。体育館だとか体育施設、そういうものは

どうしても避けたいくなる。音とかそういうものと遮断した空間でそれぞれの役割を果たせるようにしたいというのがあるので、なかなか図書館に来る人もいろいろで、本当に静かな中で本を読みたい人もいるでしょうし、もちろんちょっとお茶とかしながら本を見たい人も、新聞見たい人もいらっしゃると思うのですけれども、その辺の兼ね合いってやっぱり年寄りであればあるほど図書館って静的な場所、静かに過ごす場所という意識が私も残っていますけれども、あると思うので、その連携ってすごく大事なわけけれども、どこまでやるのかとか、切り分けどうするのかとかって、逆に。その辺はやっぱりこれからも考えていく必要があるのかなというふうに思いました。リニューアルはぜひ実現してほしいと思います。

田中委員長：ありがとうございます。先ほどから話題に出ている武蔵野プレイスの場合ですと、地下1階がいわゆる普通の大人が使うような開架式の図書館なのです。そこでも閲覧場所があって、そこはとにかく静かに読む場所なのです。だけど全館持ち歩いていいので、友達とダベりながらその本を読みたい人は1階のカフェに来て、お茶飲みながらやいのやいのやっている。だから、一応は切り分けられていると思うのです。ただ、それをやるためには、やっぱりコストが結構かかって、チェックするようなシステムが必要だと思うのですが、でも、今のとても大事な点ですよ。やっぱりわああとにぎやかなのがいい人もいれば、静かに読みたい人もいます。北欧の図書館って結構コミュニティセンターみたいなのところがあると言われますが、割と図書館の中で、みんなでやいのやいの騒いでいて、本当に静かに読みたい人にだけ静かな部屋が限定的にあるということのようなことを聞いたことはあります。それでは、ありがとうございます。皆さんそれぞれおっしゃっていただいて。

委員：1点だけいいですか。私自身もあれなのですけれども、地域の安全防災に対して公民館が果たす役割というのは、この場でも出なかったのですけれども、そういう機能というのはあまり公民館には期待しなくてもいいのですか。それともやはり期待しないといけないのですか。

田中委員長：具体的にはどんな感じですか。

委員：いや、防災講座とかいろいろ講座としてはありますよね。でも、全館見学させていただいて、地域の防災に役立っているなというイメージは受けなかったものですから、その辺のところは、公民館、今度の複合施設にしても、その辺のところはあまり考えなくてもいいのか、それともその辺のところはやはり今後考えなければいけないのか、その辺がちょっと私不勉強で分からない。

田中委員長：課長に聞いてみましましょうか。今、どんな状況でしょうか。

事務局：市全体の防災の対応については、市内でいろいろと組織をつくっていて、何かあったらまず部長以上で対策本部が開催されて各課が対応していくという中で、今現在の各公民館は、本多であったり、恋ヶ窪であったりした場合には、駅から近いので、帰宅困難者の方を受け入れるという、そういう施設に指定されております。何かあった場合には、学校にまず避難していただく。そして配慮の必要な方ですね、ちっちゃいお子さんがいたりとか、配慮の必要な方は公民館に来ていただく、二次避難所的な役割をしているというように、私たちは役割分担として既に持っております。ただ、学校に防災倉庫というのが置かれているのですけれども、公民館は特にそういった備蓄は普段していません。いざという時には本部と連絡を取り合って必要な物資をすぐ運んできてもらうというような連携をとるといった体制はとっております。

委員：それで実際私も、本多公民館で講座を持っているのですけれども、「地震があったときにはこうしてください」というのは公民館側から渡されるのですけれども、それを読むと、二中に避難させてくださいということになっているのですよね。

事務局：第一避難所です。

委員：そうすると、本多公民館で割とここで何か完結できないのかなという素朴な疑問もあるのです。集めた人をわざわざ二中まで連れていかなければいけないというのは公民館の指導なのですね。それって実際問題としてどうなのかなという、ちょっと疑問があって。公民館のところに、公民館で活動している人が完結するようなスペースというのがとれないものなのかなという、ちょっと疑問はあります。特に高齢者とか不自由な方は、二中まで連れていくのは現実問題としていかがなものなのかなという、そんなことがあります。公民館の果たす役割の中に安全防災というのはどうなのかなと、今ちょっと気になりました。

委員：私もすごくそういうふうに思っていました。

鈴木副委員長：この間のワークショップでもその話を私たちのグループが大きく取り上げたのです。今度の複合施設は二次避難場所になるということで、一次避難場所はさっき本多課長が言われたことなので。

委員：学校なのですよ。

鈴木副委員長：そう。それで、そのための設備とか、それから何が必要だということで、出された原案は大変不十分だから、杉並を私たちは見てきましたから、それを参考にしながらこういうのが絶対必要であるとか、お部屋の場合も畳やら何やらとか、それから、電気が止まった場合にも、それが再開するまでの自家発電があるとかね、お手洗いがどうだとか、そういうことも含めて再考すべきであるというふうに言いましたら、綜企画の人たちが、その場にいた責任者が、その点不足しているので検討しなければならないということをおっ

しゃっていました。いずれにしても、私たちはその一次避難場所が小中高、国分寺高校ですよね、入っていますよね。あと東経大も入っていますよね。

事務局：いざとなれば、公共施設みんな対応するようにしています。

委員：ですよね。だけど、公民館や福祉センターとかは二次避難場所ということだから、皆さんが言われるような臨機応変にどうするかというのはこれからの課題なのだと思います。それから、続けていいですか。前回見させていただいて、どっちにしても恋ヶ窪図書館も公民館も空間として面積狭いよねと、非常に狭いよねと思ったのです。中庭があるから広く見えるけれど、あれをとってしまったら非常に狭いですよねと。それで、今度移転した場合に、面積はそのまま変わりませんというけれども、それでは駄目だろうとつくづく思いましたね。ここの図書館もゆったりしていますでしょう。恋ヶ窪図書館というのは、棚と棚の間が非常に狭くて、地震なんかあったら落ちてきて大変なことになるし、むしろそれに児童図書がある場所だって、子どもたちがあそこで、ゆったり親子で本を読むような空間ではないですから、そういうことも含めて考えると、図書館広いほうがいいなと思うけれども、図書館に場所をとられると公民館どうなるのだとかいろいろあるのですが、いずれにしても、今の面積を保証するというではないよねということは、5館見てすごく印象強く持ちました。

田中委員長：ありがとうございます。それでは一通り、随分、後の議論にそのまま反映できそうなのがたくさん出てきて、ありがとうございます。この後、そうしましたら(2)ですね。「恋ヶ窪公民館の移転について」に入っていくのですけれども、今、私なりに皆さんから出していただいて、幾つか後の議論につながりそうなのが、例えば今ちょうど鈴木さんおっしゃった面積そのものが狭い、もっと広くあるべきというのとか、それから図書館と公民館の壁ですよ。そういう問題であったり、ハードという点でいくと、やっぱり何か市民がそれぞれ関わりを持てるような空間ということが大事だなというのが出たように思います。ソフトの面でいくと、これはハードとリンクしますけれども、いろいろな人が関わり合いになる、多数の人々が知り合いになる、そういうような機能というのはやっぱり公民館にとってとても大事な部分なのだなというようなことが出てきましたし、そういう関わり合いというのは、子どもと大人の関わり合いもそうだということで、恋ヶ窪図書館で実際大人が注意するのに子どもたちは寄ってくるというので、やっぱりこの辺の大人と子どもの関わり合いがあるようなフリースペースというのが大事ではないかというようなことが出てきたように思います。そういうことで、そんなことも頭に何となく残しながら次のところに行きたいと思いますが、よろしいですか。

(2) 恋ヶ窪公民館の移転について

田中委員長：それでは、前回も一通りは基本的なことを確認したのですけれども、ちょっと思い出すことも含めて、今日の資料の中の資料6-2がまず基本計画になりますね、これ。基本計画でいろいろ書いていますけれども、めくっていただくと、3ページ目に恋ヶ窪公民館に相当する部分が大部屋、多目的室の何番とかですね、そういうことが、対応表みたいなものがあります。ですから、一応この部分が恋ヶ窪公民館の場所だと想定されているところということになりましょうか。それから、一番後ろのページに1階、2階、3階とあって、これは初期的な段階でのものなので、この間課長からも何か3案また出てきたとかいう話もありましたし、これがこのとおりになるということはないのだと思いますけれども、施設の種類としては、武道場とか弓道場という運動系の施設と、それから右のほうにありますけれども、生きがいセンターとくら、福祉センター、それから恋ヶ窪公民館、こういったものが一緒になるということですね。ここでは地下が想定されていませんけれども、この後の議論の中で地下に武道場を入れても大丈夫ではないかというようなことが出てきたようなので、武道場はこの2階からはなくてもいいかもしれないというようなことですね。これが今の公共施設担当のほうから出てきているような状況になりますね。それで、もう1枚ちょっと私が書いたメモなのですけれども、これ前回お出ししたのと同じです。繰り返しになるので簡単にいきたいと思いますけれども、現時点でどこまで決まっているかですけれども、まず今、資料で見たように、恋ヶ窪公民館の場所だと想定されているものが多目的室の何番とか、和室とか、そういうことが書いてあるわけですね。書いてあるのですけれども、まず我々副委員長と一緒に公共施設担当課長に確認したところによると、黒ポツの一番上ですけれども、公民館条例はとにかく維持すると、公民館はちゃんと公民館として維持すると。そこに恋ヶ窪公民館の専用部分はこれだということは、条例上は明記するということです。だから、条例の上では公民館、恋ヶ窪公民館はここからここまでというのはちゃんと書きますというところまでは確認をとっています。ただ、実際に建物ができたときに、利用者から見て、ここからここまでが公民館だというようには明示的には分からないようにするというのが今の向こうの考え方なのです。ただ、今皆さんから出た、飾りつけをすとか活動グループが貼って情報発信すとか、そういうことを考えたとき、公民館部分というのが明確になっていたほうがいいのではないかというような議論はあると思うのです。それから、恋ヶ窪公民館使っていた人たちのいわばアイデンティティみたいなものがちゃんと守られるという点でいくと、公民館がなくなってしまったというふうにはやはりならないほうがいいかもしれない。このあたり、今日議論できるとありがたいなと思います。それから、今度は職員の方なの

ですけれども、職員の方については、2通り多分考え方があって、一括で職員の部屋に公民館職員も全部入るほうが職員の情報交流の中からは阻害されず、いいという面がありますけれども、一方で、市民の方との交流ということを見ると、一括で全部大部屋に職員がいるのではなくて、公民館に相当するような部分には職員がそちらにいて、市民と交流できるということが大事ではないかというのがあるわけですね。杉並のセンターはそういうふうになっていました。ただ、今度は2階に上がってしまうと、なかなか多くの市民とは職員が交流できなくなるほか、それから2階そのものが一般の人からは見えなくなってしまうので、本当は1階のほうがいいのか。いろんな意見とか経験が話されていきましたので、その辺、職員がどこに行き行って所在するかということも重要な問題になろうかなと思います。それで、公民館機能を減退させないための条件というのは、先ほどからも随分意見出ていますので、もういいのですけれども、公民館機能とは何かというときに、主催事業をやるとか部屋を貸すとかいうのだけではなくて、その他の部分が随分多い。私のこの間書いたレベルでは、市民と職員のコミュニケーションが大事だと書きましたけれども、今日皆さんから出たのでいくと、市民自身が情報発信するとか、人がこう関わり合いになること自体が大事だとか、いろいろ出ましたので、その辺のアとイ以外の部分が実は公民館としてはとても大事な部分だというようなことで、我々としては考え方をまとめていけるといいなと思います。それと並んで、今の中庭に相当する部分が計画には入っていないので、やっぱりこれを維持したほうがいいのかというのがあると思うのですね。そういうところで、あと提案すべきと思われるというのは、もう今の皆さんのこの意見交換の中で随分いろいろ出てきましたので、これはここから議論していけばいいのかなというふうに思います。それで、スケジュール的なことを考えると、まず3月26日でしたか、教育長。2月でした、2月26日です。2月26日に公運審の正副委員長と笹井先生と3人が教育長と会うということになっています。当然課長も来ていただくわけなのですけれども、そこで教育長とこの問題について意見交換をするということになっています。複合施設全体に対して、やはり教育委員会としていいアイデアを出したいというようなこともあるのだと思うので、我々としては当然公民館をきちんと守り、またより発展するための方策を考えたいわけなのですけれども、それが館全体のよきにつながるような形で我々は議論して、意見を言えればいいのではないかなというふうに思っています。時間も限定されているので、あらかじめある程度分かりやすい文章にして、公運審の名前で教育長宛ての提案書みたいなものをつくって持って行って、それを基に議論できれば効率的な議論ができるかなと思います。ですから今日は、できたら、この後の時間なのですけれども、今もう大分出てきましたので、これも踏まえながら、

我々が複合施設に公民館が入るときに、もっとよくなる、また公民館を守るということも含めて、どういうことがいいのかというのを話し合えばありがたいなと思っています。鈴木さん、そんなところでよろしいですかね。

鈴木副委員長：お願いします。

田中委員長：笹井委員、そんなところでよろしいですか。

委員：もちろんです。

田中委員長：それでは、いかがでしょうか。取っかかりになることを言うと、我々この間杉並の施設を見てきたのですけれども、あそこで学んだことと、それからそれまでいろいろとこの三者で、公共施設担当と話し合ったりしていたことを踏まえると、とにかく公共施設担当のほうでは、全体が貸館施設だということと、公民館としては事業ができればいいのしょうというぐらいしか考えていないというのが私の印象なのですよね。でも、そうではなくて、公民館というのはもっとそれ以外の部分で大事なところがいっぱいあるわけですね。そのために、この間の公共施設担当と我々3人として話をしたときに言ったのは、まずは職員と、専門職員と利用者の方、市民の方がちゃんと交流できて、さっき笹井先生もお話にありましたけれど、市民同士も交流でき、そしてまた職員と市民も交流でき、そこからいろんなアイデアができたり、それから人のつながりが生まれていくという、そういう拠点になる場所は絶対必要だということをおの間申し上げたのですね。そのためには、今、フリースペースとして用意されているところの一部をそういう専門職員がいるための、狭いスペースでもいいので、とってもらって、その前に市民が交流できる場所がある。サロンがあって、そこにいろんな学習講座の情報とかまちづくりの情報があって、そういうものも見ながら、まちづくりも含めて市民がいろいろアイデアを出したり、職員と交流できたりする場がそれは絶対必要ですという話をしたのです。それは杉並区の社会教育センターが2階か何かにありましたけれども、あそこはまさにそうなのです。職員がいて、前に市民の交流する場所があって。だから、そういう場所はこのフリースペースの少なくとも2階あたりにはつくってもらったほうがいいのではないかという話をしました。でも、その後の情報からいくと、2階に上げてしまうとちょっと市民全体の流れから遊離してしまうので問題があるかもしれないとか、いろんなことも出てきたので、それはまた考えていかなければいけないと思いますけれども。そのあたり、どうですかね。

委員：実は、この話しましたっけ。12月の終わりに、もう年の瀬も押し迫ったころに、沖縄の公民館にちょっと行ってきたのですよ。繁多川公民館という有名な『公民館のしあさって』という本が出ている。結構アマゾンでも売れている、ランキング1桁の公民館があって、そこにちょっと調査みたいな形で行って来たのです。後でしますが、そういう公民館の歴史を見ると、地域

のいろいろな拠点になっていた時期があって、それ以後、経済発展に伴って、例えばコンサートホールができたり、シアターができたりとか、そういう教育文化施設が専門分化するという、博物館でもその印象派の美術館ができたりとか、美術館はそうですね。あるいは現代美術館ができたりとか、恐竜の骨を展示するところができたりとかという、すごく専門に分化する、専門施設の時代があったのですよ。そのとき公民館は、公民館は多目的と言っているけど無目的なのではないかとよく悪口言われたりしてやっていたのだけれども、沖縄の公民館へ行って、脱目的型施設なのですよね。つまり単に無目的ではなくて、その公民館の受付の前に広場が、広場というかみんながいるスペースがあって、さっき田中先生も杉並も例に出しておっしゃっていましたが、子どもたちもたむろして、絵本だとか置いてあるから。大人たちもテーブルにたむろしているわけですよ、テーブルの前で。その公民館の館長さん、南さんというのですけれども、話を聞くと、そこで「これは面白いですね。今度これやってみましょうか」とか、「一緒にやりましょう」とか、「これはちょっと一遍みんなで相談して、課題解決についてどういうふうにするか考えてみましょう」と、そこで学ぼうとか学びをしましょうとか、あるいは文化的な価値をつくりましょうとかという、その前の広場で起こることがよく分かったのですね。あらかじめ目的的に、今日は何の練習でこれを使いますという目的型の施設ではなくて、脱目的型、目的型に使っている部分も多分にあるのですが、そこに行って、その場で人と話をしながら、「これは面白いですね」とかという話になって、「これやりましょうか」という、そういうふうには知らない人同士がつながって、新しいことにチャレンジしたら、すごく文化的な価値が生まれてくるような、そういう施設なのでしようということを沖縄に行って学んだのですよ。そうなのだなど、今の時代にふさわしいのはやっぱりそういう施設だろうなと思っていて。ですから、先生がおっしゃったように、専門職員がいる、カウンターのすぐ前にみんながたむろして、さっきも言ったけれども、「これはどういうふうにつくったんですかね」みたいなことを専門職員さんに聞いてみて、そこでまた専門職員がその市民とつながって、「それだったら、この人よく知っていますから、今度そこに行ってみるといいですよ」みたいな人の紹介、そういうふうにして人のつながり広がってくるのだなというふうに変更して思っただけです。だから、そういうことが体現できるようなハード。ソフトは職員の人、優秀な職員の人いるので、ハードができるといいなというふうに思いました。

委員：具体的なこれについていろいろリクエスト、今もう今日が最後ですよ。言っているのですか。

田中委員長：多分そうですね。3月に会議がないので、やっぱり今日ここである程度ご意見を出し切っていたほうがいいと思いますね。

委員：ちょっといいですか、そうしたら。これを今見ていますけれど、幾つか気がついたのですけれども、生きがいセンター、福祉センターとくらとか、そちらのほうに料理実習室、料理が括弧で実習室というものが、公民館のほうにはないということは、要するに実習室を使いたいような、そういう活動を締め出しているわけですよ。ですから、要するに例えばカービングとか、そういうようなもの。だから、そういうものをむしろ上のほうではなくて公民館のほうに欲しいと思います。つまり上のほうの実習室だと、要するに個人でいろいろやるわけですよ。個人というよりも料理実習室を含むいろんな実習というのは、むしろサークルとかそういう活動、公民館活動のほうに非常に多いのではないかなと思いますので、そちらのほうにさせていただきたいなと思います。あと、視聴覚室も、上のほうに視聴覚室がなっていますけれども、これも私、前に申し上げたのですけれども、公民館のほうに入れていただきたいなというふうに思います。それが、今気がついたところです。何か理由があるのかしら、とくら生きがいセンターとかそちらのほうに料理実習室というものを置いているというのは。

委員：持ってくると何かを減らさなければいけないのですよ。

事務局：いや、これは今の現状です。

委員：今の現状なのですか。

事務局：生きがいセンターの、実際にあるものが上、恋ヶ窪公民館にあるのがその5つの部屋という、今の現状で書いてあるだけなので。

委員：そうですか。要するに恋ヶ窪公民館で、今は料理実習室はないのね。

事務局：ないです。福祉センターにはあるので、上にあるというだけの話です。

委員：この345がフィックスされるから、何か持ってきたら何か減らさなければいけないという考え方になってしまうのですよね。

事務局：市の考えだと、今の規模を同等のものという話らしいので、そういう考えになるのかなとは思いますがけれども、それは市では。

田中委員：ただ、利用できるという点でいけば、市民は全施設平等に利用できることになります。

委員：利用できるようにね、そうですね。

委員：公民館主催で料理実習を伴うような主催行事があるのかどうか、やりたいかどうかということですね。

事務局：今は聞いているのは、施設全体の部屋なので、公民館として使うのであれば、優先的に使えるのではないかという話は聞いています。

田中委員：ある意味、公民館事業がもっともっと豊かにできる可能性が広がるということはあるかもしれませんね。

委員：分かりました。

田中委員長：今の笹井先生のお話を館長に聞いてみたいのですけれども、杉並区の施設の場合、2階にありましたよね。それで、あそこに全部社会教育センター職員がいて、あそこはまさに社会教育センターという看板を持ってがっちりしています。聞いた話によると、あれ2階にあるので、本当は1階のほうがよかったような話をたしかされていたと思うのですね。それで、多分、恋ヶ窪公民館の場合、館長を含め全員がああやって2階に入ってしまうと、1階の事務室との関係が難しくなるかもしれないし、今の館長の立場というか経験から言って、どうですか。

事務局：大きく2つありまして、田中委員長が言われているとおり、行政同士の職員が近くにいるということは、行政内部のつながりはできるのですけれども、それぞれの持っている情報というのは違いまして、やはり市民課の持っている情報は、公民館職員が見られなかったり、見てはいけなかったりする部分がありますので、ある程度そこは多分一緒になったとしても、ある程度の区画的なものではないかなというような部分では、個人情報観点からは思います。ただ、本当にその個人情報以外での職員の話合いとか日頃と同じ施設でのつながりということでは、誰かしらが、全員でなくても構わないのですけれども、同じフロアで、「じゃあ、今度お祭りしようよ」という形の一体的なお祭りの話であるとか、その地域のイベントというのは、逆に同じフロアにいたほうがいい。別途になってしまいますと、逆に公民館だけのけ者になってしまって、行かないとなかなか話せないという環境ができて得るかもしれない。ただ、いろんな市民の方から聞く中では、やはりこう市民課の窓口で公民館の職員と話すとときに「おーい、加藤」というよりは、目の前に公民館の職員がいて、話せるスペースがあったほうがいいということなので、逆にそういう方々が市民課の脇に来て相談をしづらいという話もありますので、一長一短はあるのですけれども、一番は、1階にある程度の職員としてまとまっていたほうがいいし、活動されている方々の近くに専門職員がいるというのは、子どもの管理も含めて、そういう部分で職員がいたほうがやりやすいのではないかな、いろんな情報が入ってくるのではないかなと思います。

田中委員長：例えば館長だけが全員一括事務所にいて、それで専門職員の方がそういう交流の場所にいるというやり方もありですか。

事務局：ありだとは思いますが。

委員：沖縄の公民館は、1階が図書館で、2階が公民館なのです。でも、2階が公民館といっても、カウンターの前に広場には子どももウヨウヨいるし、大人、おじいちゃん、おばあちゃんもウヨウヨいるのですよ。みんなワサワサやっていて、それがすごく印象的だったですね。

委員：もとまちがそうですね。

田中委員長：そういうスペースが1階にあったほうがなおいいということは言える。

委員：もちろんそれはそうだと思いますが、でも、そんなに変わりはないのかなとも思います。

事務局：多分、市民の方々から聞くと、やはり公民館で入るよりも、図書館と入ったほうが入りやすいというふうにはワークショップでも何人かはいらっしやったので、気軽に入れる施設的なものの魅力を打ち出したほうがいいのかなど。公民館が1階にあっても、2階にあっても。

委員：僕の理解がちょっとどこか欠落しているのかもしれませんが、当初全体として、運営自体を外部委託するのか、それとも職員の方及び時間給とかそういうもろもろ現状のスタッフの方を引き継ぐ形でやるのかみたいな話が当初あったではないですか。あれはもう解決したのですか。

田中委員長：課長に聞いてみましょう。今、そこはどうなっているのか。

事務局：一番最初、機構改革の検討委員会でその複合施設のことの管理ですね。一括管理がよろしいのではないかとというところの方向性が出たというところで、今その先は保留なのですけれども、それぞれの課の運営については、まだこれから検討していきましょう、ただ、その建物の管理は一括管理がよろしいですよというところまでが今、話をされているところです。

田中委員長：その一括管理というのは、いわゆるハードの面だけ企業に、業者に頼んで、いろんな運営その他は今の職員の方がそのまま建物に入ってやるというような。

事務局：今のイメージは、部屋の管理は、公共施設予約システムが入っていますので、それをほかの施設と同じように導入して、その部屋の貸し借り、建物のハード面の管理は、イメージ的には指定管理にやってもらう。ただ、各課の運営については、どうするかというのはまだ決定されていなくて、これから審議されるところですけれども、今の状態では、それぞれの課の職員、直営でいますので、それぞれの課の職員が運営するという、そういう前提で今、話をしています。

事務局：今、職員が上にいたほうが、2階のほうがいいのか、1階にいたほうがいいのか言っていたのですけれども、そもそもお部屋を利用するグループさんのうち、事務室に寄るグループさんって、グループだから寄るというわけではなくて、部屋の鍵を開けてほしいからというのが。備品の鍵であったり、使いたいものがあるときは事務所に寄ってくださって、そのタイミングで私たち声をおかけしたり、いろんな講座出てくださいますとか、いろんな話はしたりしますけれども、そういう役割を負ってない方というのは、もうその部屋とその外というか、出入り口を行き来するだけで、全然、貸出し業務もやらないとなってくると、もうほとんど職員との接点があるグループさんというのは限られてくるのではないかなというふうには思います。本当に当番制で

毎月例えば、何か連絡する人だけが寄ってきたりとかという形になって。館長だけが下にいて、職員が上にいるとかというよりも、その貸出しとかで、何かしら強制的に寄ってもらうことがないと、なかなかコミュニケーションはとりづらいのではないかなというふうには思います。

田中委員長：沖縄の公民館の場合は、別にそういう部屋貸しだとかではなくて、市民の方がワアワア。

委員：ワアワア集まって。

田中委員長：たむろして。

委員：それこそ「お祭りの相談しているみたい」とかって館長が言っていましたけれどもね。

田中委員長：職員もふらっと行ったりするわけでしょう。

委員：ふらっと行ったり、そういうことですね。

田中委員長：なるほど。そういうことで、どういう使い方になるかによりますけれども、恋ヶ窪が移るわけなので、今の恋ヶ窪の場合は、少なくとも市民の方が、鈴木さんとかがやっぱり職員に声かけたり、いろいろあるわけですね。

事務局：今の恋ヶ窪の施設の場所的に言いますと、必ず公民館の事務所の前を通らなくてはいけない。全てガラス張りなので、よほどのことがない限り挨拶もなしに入っていく方はいなくて、必ず一言「いつもありがとう」という形で入っていくので、今の施設の中では、素通りする人も中にはいますけれども、比較的、話しやすい構造になっていますので。並木とかはちょっと奥まってしまっているのかもしれない、うちはもう必ず目の前ガラス扉で、事務所もちょっと狭いので、近くにいるので話しやすいレベル。あとは本当にこの今課長が言ったとおり、その部屋の管理、予約システムが入ったときから若干休室になっているという部分がありますので、それを補いながらいろんな部分で入っていただく、話をしているというのが現状になりますので。

田中委員長：分かりました。あと、今の中庭に相当するスペースがほとんどなくなってしまう可能性があるのですよね。

事務局：今のこの間の話の中でも3案あって、フリースペースの場所についていろいろ議論いただいていると思います。フリースペースが大きなフリースペースにするのか、部屋のそれぞれの前にフリースペースつくるのか、何かこう回廊型でフリースペースをつくるのかみたいな、何かいろんな案があったと思いますので、同じようなフリースペース的、中庭的な要素としてフリースペースは何らか残るような形の設計にはなっているというふうには聞いていますけれども。それがでも公民館の場所という部分ではなくて、施設のフリースペースというような位置づけのようです。

委員：外庭的なものを設けるあれはないのですかね。恋ヶ窪の様子を見ていますと、一応狭いながら外ではないですか、中庭だけれども、オープン。あれ

が非常にいい雰囲気と空気を醸し出しているような気がしまして、自分たちでテーブルを持っていたり、椅子を持っていたりして勉強したりしている様子がある。施設内のフリースペースとあと、分からないですけども、結構広くとれるのであれば、周りに少し何かテーブルを置いて、外のオープンスペースみたいなものもあるとさらにいいのかなみたいな気がするんですけども。

事務局：多分それも議論の中に入っていたと思うんですけども、新しい複合施設の裏側に、民間の施設ができるような形の二層構造になっているんですね。その真ん中にオープンスペースとして、建物と建物をつなげるスペースは皆さんにも議論いただいたと思いますので、そういうスペースがどんなスペースになるかという部分で、そこに椅子があって休憩スペースができるのか、防災の拠点になるのかという話は多分出ていると思いますので、公民館の施設全体の中でのオープンスペースみたいなものはできるような計画になっているのではないかと。

田中委員長：割と大きい外庭になりますよね。

委員：この間、セシオン杉並を見させていただいて、あそこには防災倉庫が3つあったんですね。やっぱりさっきも稲津さんからお話あったように、公民館でもしも地震があったときに、またこの避難、小学校ですかね、中学校か知らないけれども、そこへ避難しなければいけないというのは、やっぱり大変だと思うんですね、年配の方も多いし。そこでとどまって、できるような場所を今度新しく施設でつくっていただいたらいいなという感じはしています。

田中委員長：そうですね。杉並、しっかりとありましたね。

委員：ああいうしっかりした、たくさん的人数が入れるような場所ですかね。

田中委員長：その辺は課長、どうですか、防災との関係で。

事務局：これは防災安全課が主管課で、防災の対応の計画を今つくり直しております。当然、新しい複合施設ですので、今までとは違う対策がとれるのではないかという可能性がありますので、こちら側も意見を言っていきたいと思います。

委員：ちょっと話がずれるかもしれませんが、文科省が社会教育士という資格というか、称号なのですけどもつくって、ぜひとりましょうというPRビデオをつくったのです。これはユーチューブでもあるんですね。そのときに、どういう場面で社会教育士の資格というか称号が有効かという、4つ挙げていて、福祉と防災と多文化共生と、忘れてしまったがもう一つあるのですよ。防災の場面というのは、地域の課題がなかなか共有できなくなった時代に、みんな共有できる重要な課題なわけですよ。そこに社会教育士、つまり社会福祉士の能力というのは、ファシリテーションとコーディネーションとプレゼンテーション、3つ挙げていますけれども、住民をファシリテ

ートして、「この地域は洪水になるかもしれませんよ」みたいな。あるいは、コーディネーション、「あなたはこっちへ行って、あなたはこっち避難して」という、それを上手にコーディネートすると。そういうことが防災施設課、知らないけれども、そういう防災の担当者ではなくて、社会教育の専門職員に求められる、これは多分公民館職員に求められるのではないかと思うのですけれども、そういうことが大事。だから、防災倉庫になるという点でも大事なのですけれども、ソフトの面で、地域の住民を動かす。防災って、例えば地震にしても、洪水にしても、土砂崩れにしても、地域によって違うわけですよ。その地域ごとの防災上の課題というものを意識して、住民を動かして、ファシリテートして、何かトラブルが起きたらコーディネートしていく。あるいは行政と、それから住民の、町内会なんかを上手に調整していくというような、そういう役割を、公民館職員の仕事を増やしてしまうかもしれないですけれども、実は公民館は担っているのではないかなというふうに思います。この間の石川県の能登の大地震がありましたけれども、地震のニュース多いではないですか。僕注目しているのは、避難場所は小学校の体育館か公民館のどっちだろうといつも注目して見ているのです。そうすると、長野県の北部地震のときは、みんな公民館に避難したのですよね。熊本は一部の人が公民館に。能登も少しは、一部の人公民館に避難している。小学校ももちろんありますが。やっぱりそういう避難場所として有効に使われている地域もたくさんあるのだなというのを改めて思いました。だから、それは社会教育とか公民館課の関わることではもしかしたらないのかもしれないですけれども、実質的には防災がうまく機能するためには、公民館の専門職員の人の働きというのがとても大事だなと思います。

委員：それと、もちろん耐震が、震度7ぐらいが来たときに耐えられるような公共施設でない駄目だと思うのです。

委員：それはそうですよね。

委員：やはりその施設自体が、耐震が必要なのではないかと。

田中委員長：その辺は間違いなく、大丈夫だと。

委員：大丈夫でしょうね。

委員：武蔵野プレイスが壊れるかもしれないということがあるので。

委員：帰って報告しなければいけないので、要するにここに関するこの、恋ヶ窪のね、それについての、ここはこういうことを要望しようとか、そういうところをちょっと、すみませんけれども、お話ししていただけますか。

田中委員長：そうですね。今ちょうど何かコミュニティバスの発車時間というのがあって、今日あんまり延長はできるだけしたくない。当然4時までの予定ですので、できるだけ終わりにしたいのです。それで、今日ここでの今のいろんな意見を踏まえつつ、これまでに公共施設の方々と話し合いながら考えたと

ということも含め、まずこのメモを見ていただいでいいでしょうか、論点メモ。これも含め、今日の新しく出たことも含め、こういう柱で要求していくということでもいいかどうかというのを、ちょっと今話をしてみます。まず1つは、3番目の項目の「提案すべきと思われること」、これは先ほどの沖縄の例もありましたし、これまで我々が公共施設を見てきたこととも共通なのですけれども、とにかく毎日、市民同士及び職員と市民間でコミュニケーションできる空間をフリースペースの一部に設置すると。モデルは杉並のこれだったということで、職員がそのそばにいて、職員と市民間も交流できるという。そこからいろいろなアイデアが生まれる。沖縄で言うと、たむろしていて、イベントや何かそこから企画していけるとか、アイデアがそこから湧き出るとい、そういうのをやっぱり確保したいというのが1つ。それから、もう1つ、②は、これはちょっと皆さんの意見を聞きながらですけれども、先ほど言いましたように、条例上はここからここまで恋ヶ窪公民館というのが明確になることは聞いているのですけれども、建物の施設に、「この部分は公民館です」とは明示しないというのが今の向こうの考え方のようなのですね。ただ、従来の利用者のアイデンティティを考えたときに、やはりここからここが公民館に相当する場所だと書いたほうが、看板か何かに、表示したほうがいいのではないかなとは思いますが、その辺はどうでしょうかという、これ2番目です。3番目は、今日いろいろと出た中で、やっぱりこの利用者が学習した成果を発信するとか、もとまちの例のように掲示していくとか、単に部屋を利用するとか事業に参加するだけではなくて、この施設を利用して学んだこと、事業に参加して学んだことを市民の方々が学んだ成果を、この施設でちゃんと発信できるというような機能というか場所というか、それ必要だと思うのですね。そうすると、私たちの施設というようになってくるし、施設管理に対する住民参画というのも出てくると思うのですね。利用者が何か成果を発信できるような場所とか機能とか、そういうものをちゃんと入れてもらうということが大事なのかなという気がしました。それが3番目です。4番目は、まさに今の社会教育士の有資格者の問題なのですけれども、今度新しい複合施設ができて、専門的職員と言えるのは、社会教育主事の資格を持った職員ではないかなと思うのですね。その職員は、今まで公民館にいたので公民館のことしかやっていませんけれども、今のお話に出たように、防災とかまちづくりも相当今の社会教育士、学んでいるのですよ。だから、いわば学ぶこととまちづくりを考える拠点として今度の複合施設ができると考えれば、恋ヶ窪公民館の職員こそがそのコアになるような職員なので、だから今は、条例上はここからここまで公民館ですけれども、公民館職員が関わりを持ち、企画して事業を展開し、市民と一緒に考えていくような拠点というのはこの施設全体だという、そういうような考え方もできるかな

と思うのですね。だから4番目には、社会教育士をここの施設の重要な職員と考えて、その人が中心となって、この施設の防災も含め企画していく。それは当然市民と一緒にやっていく。それはだから従来の公民館利用者がコアになりますけれども、福祉センターを利用していた人とか、いろんな人も混じって、公民館の何か拡大公民館みたいになっていくというようなことではないかなと思うのですね。武道場とか何場とか福祉センターとか、ほかは全部利用するだけの人たちですけれども、公民館だけは利用者がまちづくりも考え、職員と一緒に地域をつくっていくことをやってきた人たちなので、やっぱりその人たちが中心となってこの複合施設を使う、地域に向けてまちづくりの拠点としてこれを生かしていくということになるのではないかなという気がするのですね。ということで、そういうことが起こるための拠点としては、①のコミュニケーションできるスペース、そして一応やっぱりこれまでの公民館利用者がコアになると思うので、公民館という、ここからここまでが一応は公民館だということの表示ぐらいはあったほうがいいのではないかなというのが2番目。3番目には、利用者が自分たちで発信できる手づくりのいろんな発信メディアというものをどんどんここでやっていけるような、そういうスペースというか機能というか、仕組みというのが必要だというのが3番目で、4番目は社会教育士が中心となって、この複合施設を学びとまちづくりの拠点にしていくという。それぐらいの4本柱で教育長と話をしたら、教育長も少しは興味を持ってくれるのではないかなと思うのですけれども、笹井委員、どうでしょうか。

委員：いや、全くそのとおりだと思います。だから、発展的に、守りではなくて、発展させるのだということの論旨があればいいのではないかと思います。

委員：もとまちの館長さん、誇りに思います。もとまちから来ているから。

田中委員長：もとまちから。では、久保さんにもよくそういうことをお話してください。

委員：1点よろしいですか。①から④をぜひ主張していただきたいと思うのですが、4番のところで、笹井委員から前あった、全体をもう公民館と考えるみたいなことで、社会教育士の考え方もイコールになると思うので、その辺の拡大公民館みたいな形で、4番のところを教育長に言っていただけると、守りではなくて攻めになるのかなと。あと、その抽象的なことで、その辺が全部突っぱねられたときに、実利として、武道館を地下に持っていったらえらると、すごくほかのことがやりやすくなるので、「武道館を地下にぐらいいは教育長頑張るよ」と言ってもらえないですかね。そうすると、教育長が何を考えているか、武道館が地下になったら、あといろんなことができそうな気がするのです。

田中委員長：そうですね、ゆとりが出ますものね。では、というようなことで教育長とコミュニケーションするのでいいですか。持っていく文章は書いてみますの

で、また事務局を通して皆さんに送っていただいて、修正とか何かおっしゃっていただいて、また直してというふうにしたいと思います。加藤館長はじめ職員の方から何かありますか。今の4本柱みたいなのでやっていっていいかどうか。では、細かいところでまたお話ししたいと思いますので。では、本多課長も、一応そういうことで教育長に持って行って、案をつくって皆さんに見ていただいて、また修正して完成させるという。よろしく願います。それから、提案なのですけれども、通常傍聴の方からご意見をいただくことはないし、やっぱり規則上、今発言していただくともまずいのだと思うのですけれども、せっかく今日多分来ていただいた方は、それぞれ随分いろいろ考えていらっしゃるし、経験ある方だと思うので、何か期限を切ってご意見があれば事務局に送っていただくということはできますかね、傍聴者の意見を。

事務局：この会でご発言はできないと思うのですけれども、終わってからご意見いただく分にはよろしいかと思えます。

田中委員長：そうですね、終了して。では、もし何かありましたら、事務局にどうぞご意見いただいて、それを我々も踏まえてというか、参考にさせていただきながら教育長との話合いの文章をつくりたいと思います。また後で、そこは細かくきちっとやるということで。それでは、協議事項の2番目はこれで、以上でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

4 その他

田中委員長：それでは、4番目、「その他」ということで、事務局から何かありますでしょうか。

事務局：次回の日程だけ確認させていただきたいと思えます。前回、少し案のほうは出させていただいたのですけれども、まだ分からないというところがあったので、4月、5月だけはという話をさせていただいておりましたと思えますので、そのままの日程だけ確認させていただきます。次回は令和6年の4月26日金曜日でよろしいでしょうか。あとその次が、どうしても会場を押さえる必要があるので、5月24日の金曜日ということで、この2点だけ確認していただければというふうに思えますので、よろしく願います。

委員：両方とも本多でいいのですよね。

事務局：はい、本多公民館で。

委員：時間帯はこの時間帯。

事務局：2時から4時で。

田中委員長：ということで、皆さんよろしいでしょうか。ありがとうございます。

事務局：分かりました。ありがとうございます。

田中委員長：では、以上でよろしいでしょうかね。では、どうもお疲れさまでした。今日はたくさんアイデアが出て、とてもよかったと思います。おかげさまで大体4時に終わって良かったです。では、お疲れさまでした。

——了——